

事務事業マネジメントシート(平成28年度実績と平成29年度計画)

平成29年 7月18日 更新

事務事業名		地域医療・総合診療実績学寄附講座事業				☐ マニフェスト関連 ☐ 全庁横断課題関連 ☐ 集中改革プラン関連			
総合計画体系	政策	2 福祉の健康				所属部	健康福祉部	課長名	澤田勝矢
	施策	5 健康づくりの推進				所属課	健康づくり推進課	担当者名	坂井晴代
	施策の柱	21 地域医療体制の充実				所属班	健康推進班	(内線)	2135
予算科目		会計一般	款4	項1	目1	事業連番11412	根拠法令	成果優先度評価結果 : ⑫ コスト削減優先度評価結果 : ⑥	
終了、開始年度		☐ 28年度で終了 ☐ 28年度から開始				事業期間	☐ 単年度のみ ☐ 単年度繰返 (開始年度 21 ~ 30 年度) ☒ 期間限定複数年度		

★事務事業の概要 (PLAN)

【事業の内容】	①地域における医療提供体制の課題及び解決策 ②地域医療に従事する医師の支援 ③地域医療を担う医師の養成・確保に関する研究等を行なうため、熊本大学に地域医療に関する寄附講座が開設されるもので、平成21年度以降、県が熊本大学に寄附する2千万のうち、1千万を全市町が負担する。実施期間は、当初平成21年度～平成25年度までの5ヵ年であったが、本県の医師不足のため、事業継続が必要と言うことで、平成30年度まで延長となった。
【業務の流れ】	公立病院を有する市町村(20団体)で約7割、公立病院を有しない市町村(27団体)で約3割を負担することとし、合志市は年額20万円の負担をするものである。県の請求に応じて負担金の支出をする。
【主な予算費目】	負担金
【意見や要望】	平成21年6月議会の健康福祉常任委員会の補正予算審議の場で、合志市が受ける恩恵は何かという質問があった。また、県から平成30年度までの負担金の延長について、これまでの9年間で成果は見えつつあるも、継続した取り組みが必要と依頼があった。

1 現状把握の部 (DO、PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標		新規・拡充区分	
①手段(主な活動) 28年度実績(28年度に行った主な活動) (DO)		29年度計画(次年度に計画している主な活動) (PLAN)	
負担金の支出		負担金の支出 : 20万円	
① 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位) 件	予算の主な増減の理由	
→ ア: 地域拠点病院への診療支援数			
→ イ:			
②対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等	(単位)	②対象指標(対象の大きさを表す指標)	(単位)
地域医療体制		→ ア: 協力市町村数	市町村
		→ イ:	
③意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	(単位)	③成果指標(意図の達成度を表す指標)	(単位)
地域医療体制を充実させる。		→ ア: 人口10万人対における医師数	人
		→ イ: 県内自治体病院常勤医師数	人
*③成果指標設定の理由と29年度目標値設定の根拠			総トータルコスト 全体計画 ～30年度 659

(2) 各指標・総事業費の推移		単位	26年度 実績(決算)	27年度 実績(決算)	28年度 目標(当初予算)	28年度 実績(決算)	29年度 目標(当初予算)	30年度 予定	見込	見込
① 活動指標	ア	件	240	240	240	240	240	240		
	イ									
② 対象指標	ア	市町村	45	45	45	45	45	45		
	イ									
③ 成果指標	ア	人	182.3	182.3	200	190	200	200		
	イ	人	0	0	340	321	340	340		
投資 入 費 量	事業 内 訳	国庫支出金	千円							
		都道府県支出金	千円							
		地方債	千円							
		その他	千円							
		繰入金	千円							
	(A) 事業費計	一般財源	千円	150	150	200	200	200	200	
		(A)のうち指定経費	千円	150	150	200	200	200	200	
		(A)のうち時間外、特勤	千円	0	0	0	0	0	0	
	人件 費	正規職員従事人数	人	1	1	1	2	1	1	
		延べ業務時間	時間	10	10	10	50	10	10	
	(B) 人件費計	千円	39	37	39	0	39	39		
トータルコスト(A)+(B)		千円	189	187	239	200	239	239		

事務事業名	地域医療・総合診療実績学寄附講座事業	所属部	健康福祉部	所属課	健康づくり推進課
-------	--------------------	-----	-------	-----	----------

2 評価の部 (CHECK)

*原則は28年度の事後評価、ただし複数年度事業は28年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①28年度目標達成度評価	☒ 達成した 講座を開設し、地域医療への取り組みが始まっている。合志市での開業する医師も増加傾向である。
	②29年度目標達成見込み	☒ 目標達成見込みあり⇒【理由】 講座開設により、地域医療の課題への取り組みが始まるため、ある程度の効果は見込める。
有効性評価	③成果の向上余地	☐ 向上余地がある ⇒【理由】 寄附講座の内容については、熊本大学が実施運営しているため。 ☒ 向上余地がない ⇒【理由】
	④類似事業との統廃合・連携の可能性	☐ 他に手段がある (具体的な手段、事務事業) ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 他に類似した事業はない。
効率性評価	⑤事業費の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 負担金は、県の分配によるものである。 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】
	⑥人件費（延べ業務時間）の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 事務に係る時間数も最小で行なっており、これ以上の削減余地はない。 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 医療体制の充実を図るためのものであるため、公平・公正である。 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 市から県への負担金のため適正である。 ☒ 役割分担は適正である ⇒【理由】

3 評価結果の総括 (CHECK)

地域医療への課題解決や地域医療に従事する医師の確保、支援を目的としている事業であるが、市町村はその負担金を支出しているのみの状況である。今後どのように地域医療への協力が得られていくかを把握評価していくことが大事と考える。

4 今後の方向性 (事務事業担当課案) (ACTION)

(1) 今後の事業の方向性（改革改善案）・・・複数選択可

☐ 廃止

☐ 休止

☐ 目的再設定

☐ 事業統廃合・連携

☐ 事業のやり方改善（有効性改善）

☐ 事業のやり方改善（効率性改善）

☐ 事業のやり方改善（公平性改善）

☒ 現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）

(2) 改革・改善による期待成果

(廃止・休止の場合は記入不要)

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上			
	維持		○	
	低下			

(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題（壁）とその解決策